

「課題名：炎症性腸疾患における臨床的背景と臨床経過の疫学研究」 について

○ 研究の意義・目的

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病など）は原因不明の難治性疾患であり、薬物治療の反応性も個々により異なり、その治療反応性やその後の臨床経過の予測は困難です。当研究では炎症性腸疾患症例の患者背景や臨床的特徴、血液検査、内視鏡検査所見、病理学的所見と薬物治療反応性の関連性を調査し、より個別に適切な治療を選択できるよう、その臨床的背景を調査することを目的としています。

○ 研究対象者

1998年1月1日から2029年3月31日までに、広島大学病院消化器・代謝内科で加療された潰瘍性大腸炎、クローン病、腸管ペーチェット病の方を対象とします。

○ 研究方法

本研究は、全て診療録（カルテ）情報を転記して行います。

カルテから転記する内容は年齢、性別、症状（下痢回数、血便の有無、腹痛など）、血液検査結果、内視鏡所見、治療内容・期間です。（個人が特定出来る情報は転記しません）

また、内視鏡検査時に採取した、既存の生検検体を用います。

○ 試料・情報の管理責任者

広島大学医系科学研究科消化器内科学 教授 岡 志郎

○ 研究期間（委員会承認後）～2030年3月31日

○ 個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

*研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

.....

お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5191

広島大学医系科学研究科消化器内科学 教授 岡 志郎（研究責任者）

内視鏡診療科 助教 山下 賢（担当者）